

## 三川町農業委員会 新体制でスタート

### 会長就任の挨拶



会長  
大川里美 (上町)  
担当地区：上町・土口

昨年8月に新しく5名の委員と2名の農地利用最適化推進委員を迎え、12名で任期がスタートし、会長を務めさせていただくことになりました。重責に身の引き締まる思いですが、力を合わせて職務に取り組んでまいります。

昨今、担い手不足、高齢化、鳥獣被害や気候変動による生産不安等、農業を取り巻く環境は、大変厳しい状況にあります。

私も農業委員会は、農地中間管理機構とも連携しながら、次代を担う新規就農者の支援や担い手への農地集積の促進に努め、また、地域の声に耳を傾けて、耕作放棄地が発生しないように活動していきます。

三川町の「農」を守り未来に繋ぐため、皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。

大変  
おつかれさま  
でした

農業委員として、長い間ご活躍いただきました5名の方が退任されました。これまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

#### 農業委員

庄司	正廣 (横川)
齋藤	茂 (助川)
恩田	明雄 (土口)
志田	敏朗 (横内)
齋藤	俊介 (竹原田)

## 農業委員の紹介



黒田 暢

(横川)

農政部会長

担当地区:横川・横川新田・堤野・横内



齋藤 学

(落合)

農地部会長

担当地区:落合・加沼・小尺

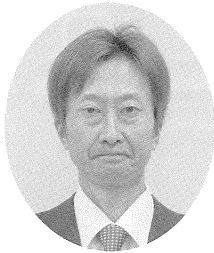


五十嵐 晃 樹

(青山)

会長職務代理者

担当地区:猪子・土橋・助川



佐藤 裕 一

(青山)

担当地区:青山・天神堂・尾花



大沼 隆 一

(東沼)

担当地区:東沼・すみよし



松田 潤

(成田新田)

担当地区:成田新田・竹原田



五十嵐 有紀子

(押切中町)

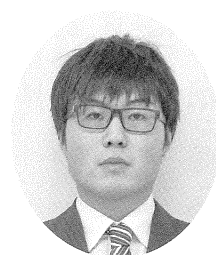
担当地区:押切中町・押切下町



石栗 聡

(横川)

担当地区:横山上・横山中・横山下

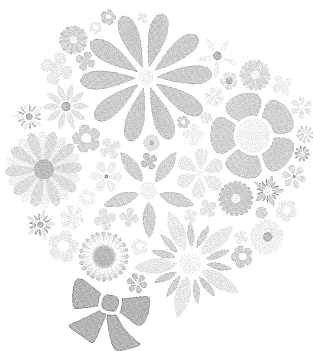


菅原 義 弘

(対馬)

担当地区:対馬・三本木

## 農地利用最適化推進委員の紹介



齋藤 健太郎

(助川)



島田 博

(横内)

# 田畑の賃借料について思うこと

地域計画のアンケート結果から

石栗 聡(横川)

この節、農業者や農地所有者の方から「今年の小作料はいくらだや？」とご質問をいただくことがしばしばあります。本町の農地の賃貸借では多くの方が、農業委員会が毎年3月に提示する「参考賃借料」と同額で契約されているのが実情です。旧呼称「小作料」の歴史を紐解くと、それぞれの時代の米事情で法外に上昇しがちな小作料が農業経営を圧迫しないよう、社会情勢に合わせた安定経営を図る目的で旧農地法のもと「標準小作料」が長年設定されてきました。しかし昨今の様々な事情から平成21年の農地法改正により「参考賃借料」へと変わります。これは当時農業経営が厳しさを増す中、農地の実情(生産費や立地条件・水利の有利不利)にあった賃借料を耕作者と所有者が1筆ごと相談し契約することとし、その際の参考情報として農業委員会が過去1年間の実勢賃借料を提示することとしたものです。

本町にある全ての水田は「共済引受13等級(580kg/10a)」にのみ該当している、県内で最も特異な地域です。(隣接市町では13等級〜39等級(単収330kg)まで複数段階ある。)そのため提示している参考賃借料は1段階のみで、実勢賃借料≠参考賃借料≠慣習価格となっている状況です。

さて、「地域計画」更新の目的で昨年12月に本町の全ての農業経営体に行ったアンケート(回答率約74%)によると、向こう数年での離農・経営縮小予定と規模拡大希望の面積は、多くの方が現状維持の意向を示す中、横山地区で縮小予定34haに対して拡大希望が88ha、東郷地区で縮小予定37haに対して拡大希望66ha、押切地区では縮小予定10haに対して拡大41ha、そして町外からの拡大希望が208haであり、その合計は縮小予定81haに対し拡大希望者が404haとなっています。耕作者の30代から60代と幅広い年代で経営拡大の意向があります。

ただし、アンケートの回答率が8割に到達しておらず、高齢でありながら営農継続の意欲が

高く、現状維持の回答が多く見られたため、これから先は、より精度の高い意向調査が必要となりそうです。

とはいえ、結果をそのまま見れば受け手が多い状況で、出し手市場とも言えます。故に、社会情勢や農地の細かな条件に応じて双方で話し合い1筆ごと賃借料を決めるなどといった、より積極的で活発な貸借も可能となります。そのようなやり方に不慣れであることは重々承知しておりますが、本町の優良な農地を基に、出し手も受け手も切磋琢磨し合う、活気あふれた気運が醸成していくことを期待します。



## 女性の会研修会に参加しました

五十嵐有紀子(押切中町)

1月28日、庄内地区農業委員会女性の会研修会に参加しました。はじめに訪れた羽黒山斎館では、精進料理の一つとしてごま豆腐が人気で、美味しさに魅了されたイタリア人シェフが泊まり込みでその作り方を習得し、実際ミラノのお店でデザートとして提供しているというお話を聞きました。植物性原材料のみでできている点が人気の理由なのでしょう。斎館でもプリン風の小瓶入りのものが新商品として売られていました。

続いて黒川地区の1BLUE株式会社を見学しました。庄内柿でエナジーバーを作り国内外で販売している会社です。事業を始めたきっかけは、オランダ人共同代表さんのリクエスト。海外展開のきっかけはSNS発信からだったそうです。

歴史ある斎館も新鋭食品加工メーカーも異文化のニーズを柔軟に取り入れながら「地のもの」を生かした挑戦をしています。さて、2年後の研修会は三川町が会場。どちらをご案内しましょうか？



## 農業委員会の活動報告

### 農地パトロールをしています

齋藤 学(落合)

農業委員会では、農業者の生産基盤である大切な農地を守りながら次世代に引き継ぐため、遊休農地の発生防止、また違反転用の発生防止の観点から毎年農地パトロールを実施しております。

農地の適正な管理を怠ると、雑草の繁殖による害虫等の温床となるだけでなく、ゴミの不法投棄による悪臭や汚水の発生源となり、近隣農業者や周辺住民に大きな迷惑となる可能性があります。また、近年問題にもなっている頻発するクマの隠れ家にもなり、適切な管理が求められます。一度適切な管理を怠ってしまうと、もう一度農地として利用できる状態に復元するには、莫大な費用と労力を要します。そうならないためにも農地の所有者・耕作者の方は除草等適切な管理をお願いします。



パトロールの際は、農業委員・農地利用最適化推進委員が農地に立ち入ることやお話を伺うこともありますので、ご理解とご協力をお願いします。

### 農業講演会を開催しました

菅原 義弘(対馬)

農業委員会では11月25日な花ホールにおいて三川町農業講演会を開催しました。

宮城県のパディ研究所所長である小野寺氏より深層二段施肥栽培についての講演、東北農政局山形県拠点の井上氏より政策についての説明をしていただきました。

二段施肥技術の講演では、ご自分がされてきた実例と、二段施肥を実行した他生産者からデータを取った結果など非常に多くの実例を見せていただきました。

庄内の稲作は初期生育を確保し収穫期まで栄養失調をおこさないような管理が常識となっている一方で、二段施肥栽培では田植え時に表面と下層9〜15センチに二層の肥料を流し込み、初期生育をあまりとらず6月20日を過ぎたころから下層に届いた根が栄養を吸って爆発的に茎数を増やし平均着粒数も一般的な稲に比べ約1.5倍になるということでした。



苗箱一枚に対して必要な種が60〜70gで10aの必要枚数8〜10枚、肥料は尿素と鶏糞燃焼灰等でP・Kを補給し、慣行栽培と比較して収穫量が10aあたり1〜2割増収するというところで、今後稲作を行う上で非常に希望となる栽培方法だと感じました。

## 農地を相続したら届出を

農地を次の世代にトラブルなく引き継ぐため、農地の所有者が亡くなったときは相続登記をし、登記完了した後に農業委員会へ届出をお願いします。

必用書類などについては農業委員会事務局へお問合せください。

## あとがき

雪のシーズンも終わり、春作業の準備に入り始める時期になりました。

秋の美りを願いつつ一歩進める作業のように、新体制となった委員それぞれが勉強に励み、地域の皆様の身近な相談役として、一歩ずつ歩みを進めてまいります。

農地の集積、集約化、担い手確保など課題は山積みですが、共に考え次世代につながる農業を目指していきましょう。

編集長 五十嵐 晃樹(青山)

